

## 地域ケア推進会議 報告書

## 【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2026年1月9日
作成 高齢者支援センター	医療と介護の連携支援センター
作成者	佐川 幸子

1.開催日時	2025年12月16日	(火)	18:00	～	19:00
2.会場	オンライン				
3.主催センター	医療と介護の連携支援センター				
4.参加人数	40人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 17人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 4人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 10人 (うち、医師 3人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 8人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input checked="" type="checkbox"/> 行政 1人		
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
6.開催テーマ	かかりつけ医とつながるために ～医療介護連携を考える～				
7.地域課題	(1)課題設定の背景				
	<p>昨年度の地域ケア推進会議において、医療機関を適切に利用するためには、普段の医療状況を知るかかりつけ医の判断が起点となり、専門医療の利用につなげることが望ましいことを把握した。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>市民や専門職がかかりつけ医の役割や重要性、かかりつけ医の判断を起点とした専門医療の受診についての理解が十分でないため、市民がかかりつけ医に相談することなく、専門医療機関を受診してしまうという課題がある。</p> <p>また、市民が適切な専門医療機関を受診するためには、かかりつけ医と専門職間において利用者に関する情報を共有することが重要であるが、共通の連携ツールがないため、かかりつけ医との情報の連携が円滑に行えていない。</p>				
8.医療と介護の連携に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医の役割や重要性、専門医療の受診についての理解が十分でない。</li> <li>・かかりつけ医と専門職の情報連携が円滑に行えていない。</li> </ul>				
9.会議の内容	<p>①地域ケア会議の主旨・経緯及びグループワークの題材説明</p> <p>②グループワーク及びグループ発表 テーマ「かかりつけ医との連携について」</p> <p>かかりつけ医と専門職の連携には、電話、FAX、ライン、MCS等のツールが利用されているが、かかりつけ医の多忙さや、個人情報保護の観点から迅速かつ安全な情報共有が難しい場合もあるため、状況や緊急性に応じた使い分けが重要である。また、医療職と介護職の相互連携には、本人や家族から聞き取った情報だけでなく、医療・介護の専門職がアセスメントで得た患者(利用者)の情報の共有が必要、との意見があった。</p> <p>③総括「かかりつけ医との連携」(町田市医師会理事 増子クリニック 増子達也先生)</p> <p>医師側としては家での状況を知りたく、介護側は病気の状況を知りたい為、相互に情報交換ができるようにした方が良い。様々な連携ツールを使い分けていかなければならない。</p>				
10.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>会議と事後アンケートを通して、地域の医師と本人・家族、介護事業所等の連絡や連携において情報ツールの更なる活用が必要であると分かった。全てに優位なツールは存在せずケースバイケースの前提であるが、従来から使われている電話やFAXと並びMCS等SNSの普及が進んでいる現状を把握した。この現状から、即時性に優れた電話や、普及率の高いFAXに加え、1つの発信を複数の受け手が共有できる情報ツールとして、MCSの定着を図ることで地域での情報共有体制の醸成を進め、課題解決へ繋げていくことが一つの対応策と考えられる。アンケート等の結果も踏まえ、引き続き課題解決へ取り組んでいく。</p>				
11.その他	一部予定を変更して実施。				

医療と介護の連携支援センター 確認日	月 日
--------------------	-----